

## 第4回蒲郡市地域公共交通会議 議事録

- |   |     |                            |                             |
|---|-----|----------------------------|-----------------------------|
| 1 | 日時  | 平成25年11月13日(水) 午前10時~午前12時 |                             |
| 2 | 場所  | 蒲郡市役所 本館 303会議室            |                             |
| 3 | 出席者 | 委員                         | 愛知工科大学自動車短期大学自動車工業学科教授 橋本孝明 |
|   |     | 委員                         | 名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授 松本幸正  |
|   |     | 委員                         | 愛知運輸支局 小林博之                 |
|   |     | 委員                         | 愛知県交通対策課 古橋昭                |
|   |     |                            | (代理 尾崎弘幸)                   |
|   |     | 委員                         | 総代連合会会長 大場克海                |
|   |     | 委員                         | 総代連合会副会長 草次英夫(欠席)           |
|   |     | 委員                         | 総代連合会副会長 天野忠則               |
|   |     | 委員                         | 蒲郡市身体障害者福祉協会 原田ます子          |
|   |     | 委員                         | 蒲郡市老人クラブ連合会 渡辺ヤエ子           |
|   |     | 委員                         | 蒲郡市社会福祉協議会 金原久雄(欠席)         |
|   |     | 委員                         | 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 織田康代        |
|   |     | 委員                         | 蒲郡商工会議所 小池高弘                |
|   |     |                            | (代理 佐藤康彦)                   |
|   |     | 委員                         | 蒲郡市観光協会 市川行雄(欠席)            |
|   |     | 委員                         | 名鉄バス東部株式会社 富田尚之             |
|   |     | 委員                         | 豊鉄タクシー株式会社 清水康朗             |
|   |     | 委員                         | 株式会社かね一自動車 石田寛              |
|   |     | 委員                         | 公益社団法人愛知県バス協会 古田寛(欠席)       |
|   |     | 委員                         | 愛知県タクシー協会 山田透               |
|   |     | 委員                         | 愛知県交通運輸産業労働組合協議会 小林宏(欠席)    |
|   |     | 委員                         | 愛知県蒲郡警察署 坂田政利               |
|   |     | 委員                         | 東三河建設事務所 大谷光司               |
|   |     | 委員                         | 蒲郡市長 稲葉正吉                   |
|   |     | 委員                         | 蒲郡市総務部長 井澤勝明                |
|   |     | 委員                         | 蒲郡市企画部長 大原義文                |
|   |     | 委員                         | 蒲郡市市民福祉部長 鈴木富次              |
|   |     | 委員                         | 蒲郡市建設部長 安藤克佳                |
|   |     | 委員                         | 蒲郡市産業環境部長 荒島祐子              |
|   |     | 委員                         | 蒲郡市都市開発部長 壁谷仁輔              |
|   |     | 事務局                        | 蒲郡市安全安心課長 永井幸久              |
|   |     |                            | 蒲郡市安全安心課長補佐 高橋信夫            |
|   |     |                            | 蒲郡市安全安心課主事 足立昌平             |
|   |     | 調査事業受託事業者                  | 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 2名   |

4 傍聴人 1人

5 議題

(1) あいさつ

6 協議事項

(1) 市民アンケート結果について・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料1】

(2) 地域公共交通について語る会の結果について・・・・・・・・・・【資料2 - 1 ~ 2 - 2】

(3) 課題整理と対応方針案について・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料3 - 1 ~ 3 - 2】

7 その他

(1) 温泉客送迎バス事業について

8 議事内容

(1) 開会

- ・ 出席委員が23名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第7条第2項の規定により会議が成立すること、本日の会議が公開となっており傍聴人がいること及び調査事業受託事業者として三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社に参加していただいていることが事務局より報告された。

(2) 議題

ア あいさつ

- ・ 蒲郡市長、稲葉正吉より今回の会議は9月に実施した市民アンケート結果と10月に各地域で実施した地域公共交通について語る会の結果報告、それらを受けての蒲郡市の地域公共交通の課題・問題点の整理とその対応方針策について報告させていただくこと。調査事業の結果がまとまりましたので、蒲郡市地域公共交通総合連携計画の策定に入っていくが、委員の皆様方にはそれぞれの分野からのご意見を存分に出していただき、第4次蒲郡市総合計画に描かれている将来像を実現できるような計画を策定していきたいと考えているとのあいさつがあった。
- ・ 議長より本日の議事録署名人として2名の委員が指名された。

(3) 協議事項

ア 市民アンケート結果について

- ・ 事務局より、資料1に基づいて説明が行われ、内容の一部変更及び更なる分析を行うこととなった。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ アンケート結果では、9割の人がバスにほとんど乗らないと回答した一方、現在のサービス水準に対しては「満足」と「やや満足」を合わせて4割近くになっている。これをどう考えればよいのか。
- ・ また、居住地域別にクロス集計結果が示されているが、例えば名鉄に対する意向が地域によって大きく異なる結果となっている。こうした地域別の分析をもっと詳細に行わないと、地域ごとの施策を考えることができないのではないかと。地域ごとに、利用状況、サービス水準、満足度、などを整理・分析する必要がある。
- ・ 前回の会議で、パーソントリップ調査を最新版にすべきということと、運転免許保

有者の動向の整理をした方が良いと発言したが、こういった現状を含めながらアンケート結果の数値をどのように捉えるか考えないと、次の施策の部分に繋がっていかない。

(事務局)

- ・ 地域ごとの差があってもよいと思っている。
- ・ 資料2では、人口の減少と高齢化の状況の整理をしている。
- ・ パーソントリップ調査の結果については、細かいデータが見つけれなかったため、対応できていない。

(事務局)

- ・ バスの利用実態に応じた分析はまだできていないため、今後分析をしたい。
- ・ 利用者アンケートも実施しており、現在までに100票を集計している。満足・やや満足で55%程度となっている。不満な理由は、乗りたい時間に運行していない、運賃が高い等がある。赤字補てんについても「現状が妥当」が約4割などとなっている。利用者アンケートの方が、市民アンケートよりも満足度が高い結果が出ている。
- ・ 満足度が低い・利用しない理由や課題について、アンケートという手段では十分把握できない。アンケートでは簡単な設問にしないと、正しい選択をしていただくことが難しくなる。そのため、次の議題である「語る会」で人口減少や高齢化の進行などの現状を説明した上で把握を試みている。

(委員)

- ・ バスや鉄道を利用しない人が多いのに満足度が高いことについては、「利用しないかわからない・そのままが良い」という消極的な意見なのだと思う。
- ・ 「アンケートでは、なぜ使わないかまで分析するには限界がある」ということだったが、できる範囲で交通体系としての課題、地域ごとの課題をもっと深掘りしてほしい。
- ・ 回収率は39.2%ということだが、蒲郡市民を対象としたアンケートとして、良い方なのか、悪い方なのか。

(事務局)

- ・ 他のアンケートの状況は把握していないが、一般的な回収率ではあると認識している。

(委員)

- ・ アンケートは、作り方で回答の傾向が変化することがあるので、読み解く際は留意しなければならない。
- ・ バスの市民アンケートを行うと、利用されない方が多いが、今回の結果はちょっと冷たい回答という印象を受けた。他市では、困っている人に対してもう少し何とかした方がいいという意見が多いように感じる。これは、財政に対してシビアなのかもしれない、あるいは、市民が行政に期待していないことの表れではないか。そうであるとすれば、単純に公共交通が必要ないと読み解いてはいけないと思う。
- ・ 先の発言のように、利用者や免許を持っていない人の分析をすべきである。
- ・ 自由記述について報告がなかった。自由記述は大変参考になるので、ぜひ報告して

ほしい。

- ・ 自動車を使える人のように、日ごろ困っていない大多数の意見だけを反映するのは、公共性があるのかどうか、慎重に検討すべきである。つまり、困っている方に耳を傾け、そこへの対応、地域の将来をどう育てていくかという視点で考えなければならぬ。その視点からすると、2ページの「アンケート結果をふまえると、高校生の通学、移動困難者の移動手段、通院のニーズが大きいことから、これらを勘案した効率的なサービスへの転換が求められる」というのは違うと思う。事実として分かったということは良いが、困っている人はどういう人で、それに対してどうするか、という視点で検討して欲しい。
- ・ また、もう少し大きな視点で、蒲郡の将来にとって公共交通がどうあるべきか、ということについても触れてほしい。

(委員)

- ・ 「行政に期待していない」「冷たい」という印象を受けたとのことであるが、いま思っていることをそのまま書いてしまったのではないか。車も発達しており、そこまで困っていないというのが若い方の考え方なのではないか。

(委員)

- ・ アンケートの結果として地域性が出るのは当然だと思う。
- ・ 駅まで出るのにバスを利用することが多いが、本数が少なく不便だと感じており、アンケート結果の数値としては妥当ではないか。
- ・ 利用者が少ない中で、蒲郡市の公共交通をどう考えていくかという部分が必要。

(事務局)

- ・ バスの利用者、免許の非保有者、80歳以上の方など、「困っている人」を抽出して分析したい。また、自由記述についても整理して報告する。

(事務局)

- ・ 平成24年1月の第四次総合計画に初めて公共交通という項目が掲載されたこともあり、蒲郡市の公共交通についてはこれからだと考えている。

(委員)

- ・ 2ページ最後の文章については削除し、「困っている人」等について更なる分析を進め、報告をお願いしたい。

#### イ 地域公共交通について語る会の結果について

- ・ 事務局より、資料2-1～2-2に基づいて説明が行われた。

〔質疑〕

(委員)

- ・ 各地区の参加者の公共交通の利用状況はどうか。

(事務局)

- ・ 利用されていない人が多かった。

(委員)

- ・ 地域の意見を聞くことは重要である。今回は、こうした取り組みの第一歩としてと

らえたい。

- ・ 直接対話の機会を設けることの目的は2つあり、1つ目は「地域の生の声を聞くこと」で、その意味では実際の利用者の参加が少なかったのは残念である。今後行う機会があれば、きめ細やかな設定が必要。2つ目は「地域の人に状況や意義を知ってもらおう」であり、この点では大変意味があったと思うが、もう少し参加者が多いとよかった。「公共交通の意義」については、説明はされたのだろうか。

(事務局)

- ・ 総合計画に記載された将来像等、公共交通の意義については、口頭で説明している。

(委員)

- ・ 全ての回に参加して、地域性について学ぶことが多かった。
- ・ 「本当に困っている人」の意見を吸い上げていないことは問題である。利用できる人は、まだ恵まれている。本当に困っている人に対しての議論をしていただきたい。

(委員)

- ・ 自由記述に関する意見があったが、「語る会」で出された意見とアンケートの意見とは、重なっているかどうか知りたい。
- ・ また、形原では「バスを単なる移動手段ではなく、健康長寿の手段、コミュニケーションの場に」という意見があったとのことだが、具体的にこれはどういうことか。

(事務局)

- ・ 「語る会」とアンケートの回答との差について、大型バスに利用者が少ないことに対する不満が多いなど、概ね重なっていると思う。
- ・ 形原地区での意見について「健康長寿」というのは外出支援という意味であったと思う。これはタクシーチケット事業の目的と同じである。また、寿楽荘の無料送迎バスの中では楽しい会話が見られるが、単なる移動手段でなく、コミュニケーションとしても考え、こうしたことを期待されているという意味であったと思う。

(委員)

- ・ 寿楽荘では、毎週水曜日に地域を回るバスが1台運行されている。それは高齢者の移動支援に大変役にたっているが、ただし送迎の回数が少ないので、バスがあったらよいという意見も見られる。

(委員)

- ・ 形原では公民館を利用される人が多い一方、バスが通っていない温泉地区の人等は、公民館まで車に乗り合って来ているようだ。バスがあることで、自由に動けるようになり、コミュニティ形成や健康増進に活かせるバスになるだろう。
- ・ 形原の海岸では夕方に歩く人が多い。西浦の方からも来る。そういうニーズはたくさんあると思うが、バスが利用できればもっとたくさんの方が来ることができる。井戸端会議のようなものが、バス停でできればよいだろう。それが健康長寿・コミュニケーションにつながる。
- ・ 高齢になって車に乗れなくなった人は足腰も弱くなるため、バスにも乗れないだろう。そう考えるとバスを利用しない人は多いわけであるが、形原ではコミュニケーション増進の観点から進めるのが良いという意見であったと思う。

ウ 課題整理と対応方針案について

- ・ 事務局より、資料3 - 1 ~ 3 - 2に基づいて説明が行われ、今回出された意見を踏まえて修正し改めて協議することで、可決された。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 蒲郡市は鉄道に恵まれているので、それを有効活用するという視点は良いと思う。
- ・ 問題はバスである。「既存のバス路線の維持を図る」と書かれているが、「選択と集中」という視点はあるのだろうか。

(事務局)

- ・ 今回は「今あるものは原則維持」という方針を示しており、それについてご意見いただければと思う。

(委 員)

- ・ アンケートや「語る会」の意見を聞くと、現在のバス路線に対する批判が非常に強い。それを維持していくとの事であるが、「選択と集中」である程度手を加えざるを得ないのではないか。

(事務局)

- ・ 今回は「今あるものは原則維持」という方針で示した。

(委 員)

- ・ 公共交通の将来像として、「安心して移動することのできる公共交通体系を構築」と言いつつ、では「地域主導」と示してあることが気になる。
- ・ 現状維持を前提として基本方針が出されており、新しいものを作るだけではないが、基本的には将来の公共交通のあり方を示すのが基本方針であると思う。鉄道を活かすべきという意見が出たが、それに対して端末交通をどうすべきか、そうしたことが基本方針に出てくる部分であろう。現状を肯定することが将来像というのは疑問である。
- ・ 財政問題についても、効率化の方策と維持確保の方策をしっかりと書いた方が良い。

(委 員)

- ・ 本計画は、総合計画の将来の姿をどう作っていくかという視点が必要であるため、将来像は総合計画とほぼ同じ言葉になっている。4つの基本方針は、それを実現するための手段という構成である。

(事務局)

- ・ 基本方針としては、現在事業者にお願いしている公共交通がなくなってしまうと、再構築は望めないことから、このような記述としている。
- ・ 「いったん白紙」ということもあり得ると思うが、今回は財政投入ルールの設定と、利用されやすい路線への見直しを図り、「地域で創り、守り、育てあげる」という協働によって、よりよい体系が出来ると思っている。

(委 員)

- ・ と は密接に関連しているので、一緒にして議論してほしい。

- ・ また の人の切実な気持ちを感じている身として、このレベル、意識でそれが解消されるのか不安である。

(事務局)

- ・ 今回の会議では、具体的な施策までは明確にしていないが、乗合タクシー等の新設やタクシーチケット事業の見直しなどで解消していけたらと考えている。

(委員)

- ・ 今回策定するのが「連携計画」であれば、交通モードの連携やその維持方法、関係者間の連携、地域間の連携といったことについてもまとめてほしい。
- ・ 財源についても、タクシーチケット事業や国の補助金を充てていく等、はっきりと書いた方がよい。
- ・ 現状を前提とするのではなく、このような部分をしっかり書いてほしい。

(委員)

- ・ 将来像に関して、先ほどの「形原の海岸を歩くことができるようにしたい」というのは、素晴らしいイメージだと思う。竹島の海岸や温泉など、蒲郡には素晴らしい資源がたくさんある。そうした資源を活かすための交通手段という視点は、ぜひ盛り込んでほしいと思う。そういうイメージを盛り込んでいけば、総合計画の将来像はもちろんだが、一步上回る良い計画になるはずである。
- ・ 「困っている人」の手段というだけでなく、地域を元気にするという視点を入れてほしい。それにより、この計画の実現に対してやる気が出てくる。それが将来像ではないか。表現の問題なのかもしれない。
- ・ 先ほど発言があった「連携」について、例えばこの会議にはPTAや市の他の部署の人が多く、そうした人との連携もあるとよい。蒲郡は観光、温泉、こうした視点もあるとよいだろう。高齢者が病院だけでなく、温泉に行っても良いだろう。また、名鉄西尾・蒲郡線にはボランティアもいるし、子どもたちも取り組んでいる。そうした視点を、公共交通のセクションだけでなく観光協会や福祉の人たちと連携して盛り込んでほしい。

(委員)

- ・ 蒲郡は細長い地形に鉄道があって、まだ恵まれていると思う。ただし、交通空白地や団地の商店が廃業するなど、困っている地域も多い。
- ・ 各旅館と共同で運行する等、観光客のためのバスも必要であろう。
- ・ ただ、車に乗れない人はバスにも乗れないため、若い人にも乗ってもらう工夫が必要である。

(委員)

- ・ 車に乗れなくなる前にバスに乗ってもらう習慣をつけてもらうことが重要である。それで足腰も元気になる。しかしそれが難しく、色々な自治体が悩んでいる。

(4) その他

- ・ 事務局より温泉客送迎バス事業についての現状報告が行われ、市内の送迎バスの状況の確認、観光協会や組合と共同事業の可能性について検討を行っていることが報告された。

- ・ 愛知県交通対策課より「エコモビリティライフ 県民の集い」の案内があった。
- ・ 事務局より、次回の会議の開催について連絡を行い会議は終了した。